

初期症状が重要な副作用について No. 4

★ 消化性潰瘍 (Peptic ulcer)

消化性潰瘍とは、胃や十二指腸の粘膜が荒れることをいいます。

消化性潰瘍の一番大きな原因はピロリ菌という菌が胃の中に感染していることですが、その次に多い原因が医薬品、特に解熱消炎鎮痛薬の服用です。この他、ステロイド剤、骨粗鬆症治療薬、市販の総合感冒薬（かぜ薬）でもおこることがあります。

消化性潰瘍になると胃のもたれ、食欲低下、胸やけ、吐き気、胃が痛い、空腹時にみぞおちが痛い、便が黒くなるなどの症状が現れます。便が黒くなるのは潰瘍から出血するためで、出血の量が多いと吐血することもあります。

症 状

「胃のもたれ」、「食欲低下」、「胸やけ」、「吐き気」、
「胃が痛い」、「空腹時にみぞおちが痛い」、「便が黒くなる」

強い腹痛がおこった場合は、穿孔（穴があく）の可能性があるため、早急に医療機関を受診する必要があります。

解熱消炎鎮痛薬服用中に起こった消化性潰瘍では、痛みなどの自覚症状が出現しないことが多く、突然の吐血や下血あるいは貧血症状の検査で発見されることもあります。貧血症状が現れた場合や血液検査で貧血を指摘された場合には、上部消化管内視鏡検査を受ける必要があります。



何らかの薬を使用していて、このような症状がみられた場合は、
放置せず、必ず主治医に伝えてください！！

原 因

薬によって引き起こされる場合があります。

解熱消炎鎮痛薬、ステロイド剤、骨粗鬆症治療薬、市販の総合感冒薬（かぜ薬）などでおこることがあります。



★ アナフィラキシー（Anaphylaxis）

アナフィラキシーとは、医薬品などに対する急性の過敏反応により、じんま疹などの皮膚症状や、腹痛や嘔吐などの消化器症状、そして息苦しさなどの呼吸器症状などがあらわれることをいいます。多くの場合は医薬品の服用後30分以内に起こります。

ときには、血圧低下が急激にあらわれることがあり、これはアナフィラキシー・ショックと呼ばれ、生命の維持上危険な状態です。

以前に使用したことがある医薬品を再び使用したときに起こることが多いのですが、一部の抗がん剤では初めて使用した時にも起こる可能性があります。

症 状

「皮ふのかゆみ」、「じんま疹」、「声のかすれ」、「くしゃみ」、「のどのかゆみ」、「息苦しさ」、「どうき」、「意識の混濁」など
※「息苦しい」場合は、救急車などを利用して直ちに受診してください。



何らかの薬を使用していて、このような症状がみられた場合は、できるだけ早く医療機関を受診してください！！

原 因

その多くは薬と考えられています。

造影剤、抗がん剤、解熱消炎鎮痛薬、抗菌薬、血液製剤（人間の血液を原料として製造された医薬品）、生物由来製品（製造段階で、人間以外の動物の組織等が使用されている医薬品）、卵や牛乳を含む医薬品（塩化リゾチーム、タンニン酸アルブミンなど）等で起こることがあります。

- * 何らかの医薬品にアレルギーがある、食物アレルギー（特に卵または牛乳アレルギー）がある、喘息、アレルギー性鼻炎、アトピー性皮膚炎などのアレルギー性疾患にかかったことがある方はより注意が必要です。

